

入間市長賞

税金との共存

上藤沢中学校 三年 尾嶋 千明

税金、と聞いて何を思い浮かべるだろうか。商品を購入する際の十%だったり、私たちが日々使っている教科書などの教材を思い浮かべるだろう。そしてどこか税金なんて私たちにはまだ関係の無いことだと思ふ人もいるかもしれない。本当にそうなのかを考えてみた。

まず、簡潔に言ってしまうえば、私たちにも関係がある。前で綴ったように私たちだって、「消費税」を払っている。ではその消費税は何に使われているのか気になった。税金の使い道は色々あるが主な使い道は医療、年金、介護などの社会保障金だ。これは私たちの生活を支える上で欠かせない。その次に使われているのは国の借金を返済するための国債費と呼ばれるものだ。もちろん他にも例は沢山ある。それこそ前例であげた、私たちの教材だって税金が使用されている。消費税を払っているから私たちに関係がある、だけではないのかもしれない。税によって私たちの生活を豊かにしてくれているのだ。学校生活では、最近エアコンのついた学校も多いだろうが、そのエアコンだって税金によって設置された。友達と遊んだあの公園も、よく本を借りていたあの図書館も、税金によってできている。では、税金を払う制度がなかったらどうなってしまうだろうか。私なりに考えてみた。公園の遊具が壊れてしまった時、もちろ

ん修理するお金がないためそのまま放置されてしまうだろう。そして税金によって建てられている警察署もあるはずがない。そうやってしまうと犯罪を取り締まる警察官が居なくなり、トラブルに巻き込まれやすくなる確率も上がる。私たちに一番身近なのは学校だが、学校も税によって建てられているため、教材はもちろん、学校自体存在しないだろう。社会保障費もないため、お年寄りの方や体の不自由な方に大きな負担がかかってしまう。このように税はちっぽけなものではなく、たくさん物の物に影響を与え、私たち日本国民にはとても欠かせないものだということがわかった。そして、今私たちが払っている消費税だけでなく、所得税もいずれ払うときが来る。けどその税金が私たちの生活を支えてくれる存在になるのだ。

このように私たちが生きていく上で必ず税と向き合わなくてはならない。税があるからこそ今このように豊かな生活を送ることができている。税のありがたみを感じながら日々生きていくことが大切だと思った。